

アート・フォー・コミュニティ

2020年度 報告書



認定NPO法人 あっちこっち

あっちこっちとは

“アートで人とまちを繋げる”

「アートは敷居が高い!」、「自分とは別世界…」と思われがちで、身近な存在ではないイメージがあります。普段の生活の中でもっと気軽に楽しめたら…とそんな思いで活動をスタートしました。

コンサートやワークショップでみんなを笑顔にしてくれるのは若い優秀なアーティストたちです。彼らと一緒にもっと色々なところへアートを届けて、笑顔を増やしたい!それを実現するために設立しました。

活動理念

【理念】

アートでまちとひとを元気にします。



【ミッション】

地域社会と芸術家をつなげることで、地域の課題を芸術の力で解決します。

【ビジョン】

日常生活の中で身近に、芸術を見たり、聴いたり、体感したりすることで、さまざまな人が、共に楽しく元気に生活することのできる社会。

【バリュー】

芸術には、あらゆる垣根をこえて、人の心をうごかし、勇気づけ、癒し、人と人をつなげる力があります。

沿革

- 2011年8月 クラシック音楽マネジメント会社KAJIMOTOにて、コンサート企画運営等幅広いマネジメント業務に関わってきた理事長厚地が退職後、「アートで社会貢献を考え、実行する市民団体あっちこっち」を設立。東日本大震災被災地復興支援のための『カフェ・コンサート』事業開始
- 2013年8月 NPO法人あっちこっち設立
- 2014年1月 介護施設での『カフェ・コンサート』事業開始
- 2015年5月 横浜市アート文化教育プラットフォームの学校プログラムコーディネーターを拝命
- 2015年5月 オーストラリアのアート団体「ポリグロット劇場」と東日本大震災被災地である宮城県南三陸町の小学校と地域の高齢者をつなぐワークショップを協同開催
- 2015年7月 横浜市の国際教育音楽祭MMCJの運営を担当
- 2016年6月 寄附金が税控除や損金扱いの対象になる認定NPO法人として指定決定
- 2018年3月 オーストラリア「ポリグロット劇場」と美術・音楽・舞踏を融合したワークショップ「ペーパープラネット」を宮城県南三陸町で開催
- 2018年4月 若手アーティスト育成および地域活性化を目指す『アート・フォー・コミュニティ』事業開始
- 2018年11月 オーストラリアのアーティスト集団と当法人アーティストの協働による、カラオケをテーマにした体験型イベント『The KARAOKE Project』を開催
- 2019年11月 食とアートでスローライフを提唱する国際交流プロジェクト「Dining Room Tales」を日本で初めて横浜と関西で開催
- 2020年9月 『こども食堂とアート体験』事業を横浜市中区寿町で開始。
- 2020年9月 『あっちこっちアトリウムコンサート』シリーズを横浜市庁舎で開始。



AFC（アート・フォー・コミュニティ）とは

アートを取り入れた地域振興を考えた場合、アートを受け入れる土壌が育っていない場所でいきなり大掛かりなイベントを催しても、地域住民、企画側の双方にとって負担が大きく効果も少ないため継続的な実施が難しくなってしまいます。まずは普段の生活のほんの一部分にアートを取り入れ、身近に傍に感じられるものになること、いずれはアートが生活の一部となり、アートを使った地域経済の発展と繋がることを目指します。

アートと地方創生というテーマのもと、商店街の活性化のためにアート活動を地域住民とともにやり、商店街の認知度の向上及びアートがもたらし得る地域経済への効果や生活を豊かにする効果について、具合的な活動を通して知見を獲得します。ひいては日本全体のアート活動の向上及びアートの持つ潜在的な力の共有化、アーティストの職能の認知拡大へとつなげることを目的と致します。

あっちこっちは、これまで多くのコミュニティの皆様からアート活用の難しさ、若手アーティストからは地域活性化における様々な悩みを聞いてきました。



アートを活用した地域活性化に興味のある

コミュニティ

- ✓ 具体的な方法がわからない。
- ✓ 過去にうまくいかなかった。
- ✓ そもそもアートで何ができるかわからない。

成果をあげる
には？



芸術スキルで地域活性化に貢献したい

若手アーティスト

- ✓ もっとコミュニティのニーズを反映した企画をしたい。
- ✓ 成果を挙げるために、芸術スキル以外に身につけるべきものを模索中
- ✓ アートで解決できる地域課題の可能性を広げたい。

大きな課題は、コミュニティと若手アーティストの間のコミュニケーションギャップや、イベントやワークショップなどを協働してつくりあげていく、という意識の希薄さにあるのではないかと私たちは考えました。そこで、あっちこっちが、両者の間に入り…



コミュニティ

- ✋ コミュニティ特性に合致したアーティストを**マッチング**します。
- ✋ アーティストとコミュニティ間のコミュニケーションを促し、**見守りとサポート**をします。
- ✋ 豊富な実践例を参考に、イベント**企画・制作サポート**をします。



あっちこっち

若手アーティスト

- ✋ コミュニティの**ニーズを把握し、企画に反映する支援**をします。
- ✋ イベントの企画・制作から実践に向けた**プロデューススキル**を身につける機会や教育の場を提供します。
- ✋ アートによる地域振興実例等をもとに、**企画・制作の支援**をします。

あっちこっちが

- ・両者間の**仲介**。
- ・アーティストの**プロデューススキル向上をサポート**。



することで、課題解決を目指す。

活動エリアの特性・課題

今年度のAFCの活動拠点である**横浜市中区麦田町**は、周辺に史跡や名所、学校、公園等を多く有し、中心には古くから地域住民の生活を支えてきた麦田町商店街がある住宅地です。恵まれた環境にありながら、中区全体と比べて高齢化率が高いため、地域の福祉保健活動等の担い手の高齢化が進み、担い手不足が懸念されています。

今年度AFCの特徴と総括

昨年度のAFCイベントでは麦田町在住の子どもの参加が少なかったため、麦田町の子どもたちにより地域に愛着を持ってほしいという思いから、今年度のAFCでは親子向けのイベントを企画しました。町の妖精キャラクター「ムギーとギータ」を通したイベントにすることにより、町のキャラクターの知名度を上げることができ、1年を通し繋がりのあるイベントにすることができました。

麦田町発展会

麦田地域ケアプラザ

あっちこっち

実施内容

今年度はコロナウィルスの影響で多くの対面でのイベントが中止になってしまったため、家で安心して楽しめるようにと動画でのイベントを開催しました。町の妖精キャラクター「ムギーとギータ」のミニチュア版をキットを使い子どもたちが制作し、子どもたちの作品が動画に登場することにより作品を通し交流します。

①ミニチュア版「ムギーとギータ」を作ろう！

内容：ミニチュア版ムギーとギータ制作キットと作り方動画を美術家が制作し、参加希望の親子が作品を作りました。キットは町内の施設に期間を設けて受取や引取りを行い、作り方動画はYouTubeで配信しました。親子で制作した作品は、コロナで集まれない子どもたちの代わりにコンサートなどの映像配信の際に出演。制作キットは30組60個限定。参加者には麦田町発展会からハロウィンのお菓子をプレゼントしました。

参加：18組

キット配布期間：第1回8月3日(月)～8月10日(月・祝)
第2回9月14日(月)～9月18日(金)

完成作品受付期間：10月3日(金)～10月9日(金)

撮影終了後作品引取期間：10月24日(土)～10月31日(土)

配信：あっちこっちYouTubeチャンネルから8月10日(月)より配信
再生回数：86回(1/21付)



②ムギーとギータが教えるコロナウィルス感染防止対策ムービー

内容：昨年制作した等身大ムギーとギータ、そして親子が作ったミニチュア版ムギーとギータによるコロナウィルス感染防止対策ムービーを制作しました。

撮影日：10月20日(火)

配信：あっちこっちYouTubeチャンネルから12月1日(火)より配信
再生回数：184回(1/21付)



③ハロウィンコンサート

内容：昨年制作した等身大ムギーとギータ、今年親子で制作したミニチュア版ムギーとギータを津ノ国屋材木店倉庫に飾り、無観客でハロウィンコンサートを開催しました。その様子を映像に撮り動画配信しました。親子が制作したミニチュア版ムギーとギータは1対ずつ紹介するほか、麦田町内の名所を撮影し町の紹介を動画冒頭で行いました。

撮影日：10月14日(水)

配信：あっちこっちYouTubeチャンネルから10月31日(土)より配信
再生回数：207回(1/21付)



④クリスマスコンサート

内容：昨年制作した等身大ムギとギータ、今年親子で制作したミニチュア版ムギとギータを麦田地域ケアプラザに飾り、無観客でハロウィンコンサートを開催しました。その様子を映像に撮り動画配信しました。親子が制作したミニチュア版ムギとギータは1対ずつ紹介するほか、麦田町内の名所を撮影し町の紹介を動画冒頭で行いました。

撮影日：10月10日(土)

配信：あっちこちYouTubeチャンネルから11月29日(日)より配信

再生回数：184回(1/21付)



あっちこち登録アーティスト

プロジェクト・リーダー：檜原いちご（フルート）

田中愛実（ピアノ）、藤川玲菜（ソプラノ）、

降旗真理子（ピアノ）、于景（美術家／建築デザイン専攻）

*動画撮影&編集：JKarts 木下淳

コンサート動画出演ゲスト

荻野尚、春原美子（麦田地域ケアプラザ）

大谷稔（麦田町発展会 会長）

横山孝行（株式会社津ノ国屋材木店 社長）

実施スケジュール

年月	内容
2020.1-2020.3	事前ヒアリングと打ち合わせを開始、リーダー・アーティストの決定 『麦田町発展会』へ企画提出
2020.6	コロナウィルスの影響により企画変更し『麦田町発展会』へ再度企画提出
2020.7	アーティスト決定
2020.8	8/3～8/10「ミニチュア版ムギとギータを作ろう」キット配布 @麦田地域ケアプラザ 8/10「ミニチュア版ムギとギータを作ろう」作り方動画を配信
2020.9	9/14～9.18「ミニチュア版ムギとギータを作ろう」キット配布 @おおたに家電
2020.10	10/3～10/9「ミニチュア版ムギとギータを作ろう」作品受付 @麦田地域ケアプラザ 10/10「ムギとギータのクリスマスコンサート」撮影 @麦田地域ケアプラザ 10/14「麦田町」内の名所・商店街などの撮影 「ムギとギータのハロウィンコンサート」撮影 @津ノ国屋材木店 10/20「ムギとギータが教えるコロナウィルス感染防止対策ムービー」撮影 @麦田地域ケアプラザ 10/24～10/31「ミニチュア版ムギとギータを作ろう」作品引取 @麦田地域ケアプラザ 10/31「ムギとギータのハロウィンコンサート」配信
2019.11	11/29「ムギとギータのクリスマスコンサート」配信
2020.12	12/1「ムギとギータが教えるコロナウィルス感染防止対策ムービー」配信
2021.1	1/4 活動に関わった全員が出席し、成果・課題・今後の展開について話し合う合同報告会を開催し、来年度の企画提出に向け準備を始める

振返り会の報告～関わって良かった・AFCを体験して課題に思ったこと

振返り会の報告

開催日時：2021年1月4日13時～15時、開催場所：麦田町ケアプラザ 多目的室

出席者：麦田町発展会 会長：大谷稔、イベント担当：昌山仁大、麦田地域ケアプラザ コーディネーター：荻野尚
認定NPO法人あっちこっち プロジェクトリーダー・登録アーティスト：檜原いちご、総括責任者：厚地美香子（理事長）
登録アーティスト：降旗真理子（ピアノ）、田中愛実（ピアノ）、藤川玲菜（ソプラノ）、于景（美術）

関わって良かったこと・工夫したこと

麦田町発展会

- ・ 昨年の活動より、マスコット(ムギーとギータ)の認知につながった（大谷）
- ・ 企画自体が初めての試みで、コロナ禍の制限の中ではよくできた（昌山）

麦田地域ケアプラザ

- ・ ケアプラザにムギーとギータのモニュメントを配置をすることで、来場者に興味を持ってもらっている（荻野）

あっちこっち

- ・ 参加型のコーナを設けたことが一番の工夫である。（藤川）・ 初めて聴いた方も楽しめる内容となったと思う（降旗）
- ・ プログラムに工夫出来た（田中）・ 町の紹介を入れることで、町の魅力を知ることができる動画になった（檜原）
- ・ キッチリした感染防止対策の中で遂行することができた（于景）
- ・ コロナ禍での活動に悩まされたが、当初の対面企画の予定を変更し、パフォーマンスを映像に転換できたことはよかった。また経費の面でもコロナ関連映像助成金が該当出来た。麦田町発展会、麦田地域ケアプラザの協力に感謝申し上げたい（厚地）

麦田町発展会とアーティストとの意識の違い

麦田町発展会

- ・ アーティストの研鑽のために場所を提供しているという自負がある（大谷）

あっちこっち

- ・ 演奏の機会をいただけていることには、感謝している。コンサートホールでなくても、どこで演奏するにしても、プロフェッショナルとして行っている（藤川）
- ・ モチベーションとしてはコンサートホールで実施するのと何も変わらない。プロフェッショナルとして音楽を提供している（田中・檜原）

AFCを体験して課題に思ったこと

麦田町発展会

- ・ 動画の効果について、コンサートでは地域の皆様に直接届けられるのに対し、仕方のないことだが、不特定多数が視聴できる動画配信が地域の皆さんに効果があったかは不透明。本来であれば「ハロウィン、お祭り、焼き芋大会」などのイベントが出来たが今回は横浜市から自粛要請があり出来なかった。コロナ禍の中で発展を試みるのが大切である。発展会としては個々の店の発展や売上げに貢献した活動を行いたい。芸術と商売の関係性はわからないが、人が商店街に来るきっかけ作りが大切である。音楽家の自己満足のみでは発展会として協力はできないので、焦点の利益にもっと著しくつながるような企画があると良いだろう。観光地・商業地とは異なり、地域性を重んじることが最善である。
- ・ 目的意識の差異、段取り含め、共通意識がさらに必要。発展会が求めるアートは、何か形が残るものが分かりやすい。コンサートは形が残らないので効果が分かりづらいので見直しを求めたい。また助成金ありきではない形で継続的に企画が進むと良いと思う。あっちこっちアーティストに出来ることのメニュー表などがあると良い。一般的にアーティストとしては、コロナ禍でどのような活動をしているか知りたい（昌山）*以下回答
* 政府からの要請に沿った制限で活動している。集客可能人数は自治体によって異なるのでそれに合わせている。
コロナ禍で開催した子どものためのワークショップはすぐに完売したように需要はある。今後もコロナ禍で出来る事をしていく予定でアーティストの活動は継続（厚地）

麦田地域ケアプラザ

- ・ ケアプラザとしてのかかわりは深かったものの、地域としての効果はいまひとつであったかもしれない。ケアプラザ・発展会・あっちこっちの三者でのつながりをさらに綿密にすることで効果的になると思う（荻野）

振り返り会の報告～ 今後の展望・来年度の企画・アート体験教室事業案

あっちこっち

- ・カメラ越しに演奏する難しさに苦労をした。トークの違和感を減らせればよかった（藤川）
- ・カメラのうつりなどに、事前準備が必要だった（降旗）
- ・大谷会長などへ、映像出演のお願いを当日ではなく事前にお伝えすべきだった（田中）
- ・クイズコーナーで用意した紙の文字が動画だと薄くて見えなかった（檜原）
- ・麦田町の特徴をもう少し表せると良かった（于景）
- ・麦田町発展会の方々と情報や意識の共有の難しさを感じ今後の課題に思う。麦田町地域のために何ができるかということをアーティストが考えプロジェクトを進めていることを知って頂きたい。（厚地）

今後の展望

麦田町発展会

- ・今後もムギーとギター制作キットを活用したらどうか。来店者との話のきっかけになるので、発展会の店に作った人の名前を記入したムギーとギターのミニチュアマスコットを置きたい。コロナ感染者を地域から出してしまうと、風評被害につながる恐れがあるため出さない対策を徹底したい。コロナ終息後には、アーティストとの交流を行っていききたい。人が集まって大丈夫になったときにコンサートなどの催しも前向きに考えたい。年二回ほど津ノ國屋材木店倉庫を利用したコンサートが出来るかもしれない。音楽好きの方々のために需要はあるはずだと思う。とにかく人が集まらなないと商店街の活性化にはならない。今年ハロウィンの分の予算を来年度の提案のアート体験教室にまわすとなった場合、赤字ベースで考えるのではなく、利益・効果を含めた提案と見直しが必要である（大谷）
- ・文化芸術を根付かせるために、ホールがない地域に対し、出来ることを考えてほしい。来年度の提案となっているアート体験教室はそのときのコロナの状況がどうなっているか不安である（昌山）

麦田地域ケアプラザ

- ・あっちこっちの企画に基づく施設の利用によって、生きがいづくりも含めた音楽のちからにより、地域住民の心の健康の助けになると思う。発信のみではなく、参加をうながすものと考えていきたい（荻野）

あっちこっち

- ・発展会の目指す利益への貢献をしたい。町の様子を紹介したり店への取材したりした上で演奏の動画にも努めたい（藤川）
- ・継続すること（降旗）
- ・私たちがただコンサートをするだけでなく、お客さん参加型のイベントができたら良いと思う。芸術を体験してもらったり、お店を紹介したり、地域の方との関わりを増やしたい（田中）
- ・どのようにしたら発展会の利益に直接繋がるのかまだアイデアが浮かばないが、地域貢献できるイベントを考えていきたい（檜原）
- ・未だ良いアイデアはない（于景）
- ・一緒になにかをやる！という意識を3者で共有し、より良い提案をして行きたい。アーティストは研鑽の場として麦田町発展会さんとのプロジェクトをしているのではなく、プロとして最善のパフォーマンスを提供しているという自負があると考えていただきたい。アーティスト、また発展会の方々のどちらが有利という事ではなく、一緒に立場で考えていただきたい。現在寿町で開催している「こども食堂とアート体験」の活動を麦田町発展会とリンク出来ればと思う（厚地）

来年度の企画・アート体験教室事業案

- ・地元を大切に思ってくれる人を増やし、大事にしたい。教室事業について、町内の活気にもつながるものとなれば嬉しい（檜原）
- ・アーティストへの謝金は1回につき、1～2万円ほど。交通費やリハーサル費用が謝金以外にも必要である（厚地）
- ・地域から出られない人々に、非常に貴重なことになる。午前は大人(高齢者)向け、平日放課後～お母さんが帰宅するまでの間にケアプラザに来る児童がいるので、需要はある。ケアプラザとしてアーティストへの謝金は出せる。（荻野）
- ・教室事業が進めば、津ノ國屋材木店での発表会なども面白いのではないかな。その場合は集客は必要なく、出演者の家族などにお越しいただければ良い。教室の開催は、平日だと放課後又は休日などだろうか（昌山）
- ・コンサートではなく教室という共有の場を広げていくことに意味がある。ハロウィンイベントは今年も難しいかもしれないので、この企画を進めましょう。ただ会員の賛同も必要になるので、そこについては理解を頂きたい。改めて大まかな予算を含めた企画書(試算書A4で1枚ほど)イラストをはさむなど、イメージをしやすいものを提出してほしい（大谷・昌山）

認定NPO法人 あっちこっち

私たちには、人と人をアートでつなぎ、
コミュニティを笑顔にする力があります。

住所: 〒231-0852 横浜市中区西竹之丸61-5

Tel: 090-1261-1308

Mail: info@acchicocchi.com

URL: <https://www.acchicocchi.com/>

